



令和5年7月14日(金) 新人教育研修

「医療安全」



講師
医療安全推進室
沖島さん

【参加者】

相馬祐亮、片野彩香、田中愛莉、亀田希、藤田千穂、伊藤亜紀、対馬帆乃香、小松璃子、堀川桃子、渋谷麗夢、花坂美加、船越詩音、辻野愛奈



【研修目標】

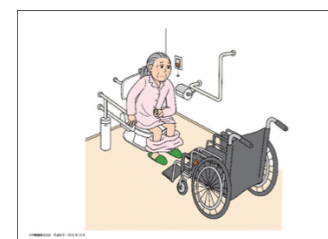
- 1、院内でのインシデント分類について理解する
- 2、新人が起こしやすいインシデントと対策を知る
- 3、インシデントシートの入力方法を学ぶ
- 4、危険予知能力を身につけるための手法を学ぶ

GW 危険予知トレーニングでは2グループに分かれてグループワークを行いました。イラストを見て、①危険ストーリーを考える②重要度が高い危険度を選ぶ③最重要項目の対策を考える④最重要対策を選ぶ。皆さんも考えてみてください♪

講義は、インシデントレポート報告基準から始まり、患者影響レベル、事故発生時の報告経路など業務で起きたことに対する対応方法を学びました。インシデントを起こしたらまず所属長に報告しましょう！

次に具体的な3事例を通し、新人が起こしやすいインシデントについて学びました。具体的事例から6Rの大切さや指差呼称を行うことで思い違いや、思い込みのミスを大きく減らすことができることをわかりやすく説明してくれました。

インシデントレポートの書き方では実際に書いたことのある人もいたと思いますが、レポート画面の仕様やレポートを書くときの注意点の講義を受けたことで理解が深まったのではないのでしょうか。レポート記載は事実を記載する、言い訳にならないようにする、他人批判や反省文にならないようにするの3つが大切です！



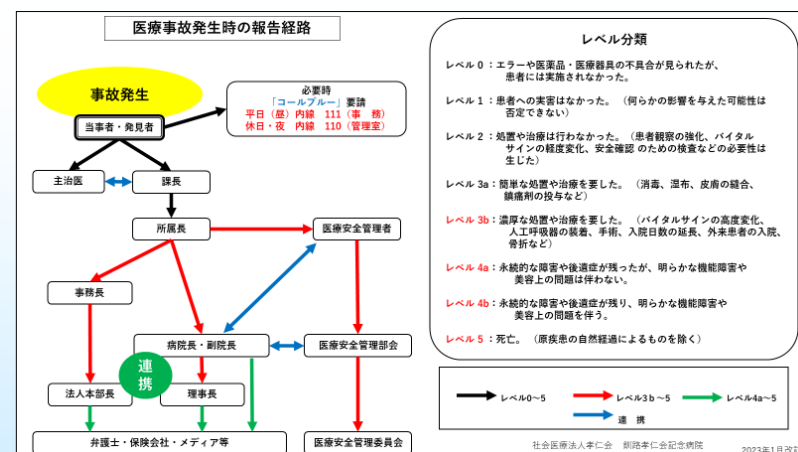
KYTルール

- 1 他人のアイデアを否定しない
- 2 どんな発想のアイデアを受け入れる
- 3 質より量が大事



患者影響レベル

分類	患者影響度	傷害の継続性	傷害の程度	内容
アクリンレベル	レベル0	-		エラーや医薬品・医療器具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった
	レベル1	無し		患者への実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない)
	レベル2	一過性	無し～軽度	処置や治療が行わなかった(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた)
	レベル3a	一過性	中等度	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
アタクシレベル	レベル3b	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)
	レベル4a	永続的	軽度～中等度	永続的な障害や後遺症が残ったが、明らかな機能障害や美容上の問題は伴わない
	レベル4b	永続的	中等度～高度	永続的な障害や後遺症が残り、明らかな機能障害や美容上の問題を伴う
	レベル5	死亡		死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)



※アクシデント発生時は、直ちに所属長へ報告。
所属長から院長・副院長、医療安全管理者に一報する。
※緊急措置後、延滞なくレポートを入力する。



④で選んだ対策で指差呼称の練習



【編集後記】

グループワークではお互いにコミュニケーションをとり、スムーズにワークを進めており前回コミュニケーション研修が活かされていると感じました。今回の研修で学んだことを活かし、安心してあずけられる安心してかかる病院を目指していきましょう。看護部教育委員会 新人研修企画担当 宮内綾人 飯島詩織